

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390300420		
法人名	株式会社医療給食		
事業所名	グループホームオアシス大河 あじさい		
所在地	愛知県名古屋市区中切町6丁目13番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和4年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2390300420-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市区熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体が(株)医療給食であり、担当の栄養士が食事形態や好き嫌い等に配慮し、個々に対応することが出来る。毎日のおやつは手作りの物を提供し、時には入居者様と一緒に作ることもある。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年度新たに開設した事業所であるが、管理者が昨年度まで関連事業所の管理者でもあったことで、両事業所間で連携した様々な取り組みが行われている。当ホームは、関連事業所とは異なりフロア内が広い空間が確保されていることで、利用者が毎日の生活をゆったりと過ごすことができる生活環境がつけられている。関連事業所で行われている毎日のおやつ作りの取り組みについては、当ホームでも同じように行われており、利用者の楽しみの機会につなげている。食事についても運営母体が高齢者の食事を提供する専門業者でもあることで、利用者の身体状態や健康状態等に合わせた食事の提供が行われている。また、当ホームについても2か国語で申し送りを行う取り組みが行われており、職員間で情報交換を行いながら利用者の介護計画や支援内容等の共有につなげている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	日常の支援の中で理念が根づいていない。笑顔と思いやりがあり、生活にやすらぎのある喜びを分かち合えるよう。サービスにつなげている。	「笑顔と思いやり」を支援の基本に考えており、職員間で共有できるように日常的にも管理者からの働きかけが行われている。また、職員間で言葉の問題がないように日常的な申し送りを通じた意識向上も図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍があり、地域の方との交流はできていない。	感染症問題が続いているが、管理者が近隣に開設している関連事業所の管理者でもあったことで、地域の方との情報交換等の機会が作り、地域の自治会への加入も行われている。また、運営法人を通じた地域貢献につながる取り組みも行われている。	地域の方との交流については、関連事業所で行われてきたこともあるため、今後の感染症の状況をみながら徐々に交流の機会が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在は、地域の人々への発信は出来ていないが、今後、少しずつ発信していきたいと思っている。 コロナ禍のため、実施できず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、運営推進会議が文章配布のみになっており、話し合いが行われていない。 コロナ禍のため、実施できず。	感染症問題が続いていることで。運営推進会議は書面による実施となっていることもあり、今後のテーマでもある。近隣に関連事業所が開設されていることで、会議の開催方法等についても検討している段階である。	開設時から運営推進会議を開催していない状況でもあるため、関連事業所との合同の会議の開催等も含めて、次年度からは会議の開催が行われることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区役所保護係やいきいき支援センターの方とは、入居状況等、連絡をし情報発信をしている。 いきいき支援センターのケアマネさん等と連絡を取り合っている。	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等については、関連事業所を通じて行われているが、ホームでも随時の情報交換等の機会がつけられている。また、運営法人でも感染症対策の施策等を通じた連携が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティング等でその都度説明、指導をしている。 3ヶ月に一度、話をしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、フロア内が関連事業所と異なり広い空間であることで、職員間での見守りを重視する支援が行われている。また、身体拘束に関する情報交換や定期的な職員研修の取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ご利用者の様子を職員同士で申し送りし、夜間帯もユニット間で巡回を行い、防止に努めている。 1/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は理解できていない人が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時にひと通りは説明し不明点がないかを尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族からは、随時意見や要望を伺えるよう、まめに報告、連絡をしている。	現状、家族との交流の機会は限られた範囲となっているが、「苦情110番」として、運営法人の代表者の連絡先を掲示する取り組みが行われており、利用者及び家族からの要望等の把握につなげている。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	感染症問題の中での事業所の開設であったことで、家族がホームの中に入ることができない状況でもある。次年度からは感染症の状況をみながら家族との交流の機会がつけられることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を開催し、意見や提案を聞くようにしている。 リーダー、勤務帯別でのミーティングを設け、職員の意見を聞いている。	職員間で情報交換の機会をつくり、職員からの意見等を管理者やリーダーが把握し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、言葉の問題がないように外国語でも申し送りを行う等、職員全員と意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員→リーダー→管理者→代表者 その都度報告、状況の把握をし、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者やリーダーが現場で気づいたら声を掛け、指摘、指導をしている。 社内に研修を実施し、職員のトレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍の為、勉強会参加や相互訪問は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来るだけユニット職員を固定し、馴染みの関係が築けるようにしている。 個々で会話する時間を設け傾聴している。 本人の気持ちに寄り添いながら、本人が安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時に伺い、入居後の支援につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることは、無理のない程度と一緒にやっていたり声掛けをしている。 時折、お盆拭きや新聞紙たたみなどのお手伝いをしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	随時、家族に連絡し、支援について相談し、同意を得るようにしている。 職員とご家族様の信頼関係を良いものにし、ご本人の生活の安定につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会や外出は自由にさせていただけるようになっているが、現在は、コロナ禍である為、面会制限、外出制限をしている。 ご本人様が連絡をとりたい方に電話や面会をするなどのサポートをしている。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には、手紙や携帯電話等で交流を継続する等、可能な範囲で関係継続の機会がつけられている。また、家族との外出についても身内の方の葬儀や法事等、関係継続の機会にもつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ユニットの中で、一緒にレクリエーションを行ったりして、親睦を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り、意向に沿った暮らし方をしている。 一人ひとり、思い思いの過ごし方をしている。	職員間で日常的に利用者に関する意向等を把握し情報を共有する時間をつくり、日常の支援につなげる取り組みが行われている。また、利用者や家族に関する意向等の情報を2か国語で記録に残す等、職員間で日常の支援に反映する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメントで把握をし、入居してから何気ない会話の中で引き出せるようにしている。 これまで(入所まで)の暮らし方をスタッフ同士で共有し、本人の生活に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	コミュニケーションの機会を持ち把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の意向、希望をもとにユニットスタッフや看護師も意見を聞き作成している。	介護計画については、1年までに見直しを行うこととしているが、開設1年目であり、介護計画の見直しは今後のテーマでもある。職員間で日常的に支援内容をチェックする取り組みを行いながら、3か月でもモニタリングにつながる取り組みも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録、排泄記録、入浴記録、経過記録への記入。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1回の内科、皮膚科、眼科、歯科の往診の他、緊急時を含め受診の付き添い等対応し支援している。	関連事業所と同じ協力医が当ホームの協力医でもあることで、引き続き、定期的及び随時の医療面での支援が行われており、利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。また、ホームに看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	適時のバイタルチェックや様子観察で気付いた事を看護職員に報告し、受診につなげている。 介護、看護が密に連絡、相談を行い、本人の体調管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室の担当者と連絡をとりあっている。 介護、看護が情報交換し、入退院時のスムーズな対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	上床Drよりご家族に現状説明をしていただき、ご家族の意向を尊重した上で看取りの支援を行う。 かかりつけ医、看護、管理者、ご家族、介護で方向性を話し合い、チームでの支援に取り組んでいる。	関連事業所で利用者の看取り支援が行われていることもあり、当ホームでも看取り支援を想定した家族との話し合いが行われている。家族から看取り支援の意向もあり、医療機関等への移行支援も含めて、ホームで支援可能な内容の話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	医療給食本社から講師を招き、救命講習を行っている。 定期的な話をしたり、救命講習を行ったりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を予定している。 水害があったら3Fに上がる。地震があったらテーブルの下に隠れる。火災があったら火元から離れる。	年2回の避難訓練を実施しており、併設の障害者支援事業所と連携した訓練も行われている。併設事業所で通報装置の誤作動が起きたことで、職員間で通報装置の確認が行われている。また、備蓄品については、ホーム内の他にも運営法人内にも確保されている。	地域の方との協力関係については今後に向けたテーマでもあるが、関連事業所と連携した非常災害に関する取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけ、言葉遣いには十分気を配っている。 本人の性格などを考慮し、ケアの仕方やスタッフを替えたりしている。	基本理念でもある「笑顔と思いやり」を職員間で実践できるように、日常的に情報交換の機会をつくり、職員の意識向上や注意喚起等につなげている。また、職員会議等の機会を通じた職員の振り返りも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り、ご本人の思いや訴えを傾聴するよう努めている。 本人様の少しの変化にも気づける様に気を配り傾聴に務めている。 本人に合わせた言葉かけや対応をし、場所、環境等も考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ひとりひとりのペースで希望に沿った支援をするよう努めている。 本人の気分に合わせて、実施するレクを選んでいただいたりし、柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	1ヶ月に1回訪問理美容を導入し、希望に応じて利用していただいている。 着替えのときに衣類を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備は一緒には出来ていないが、おやつは出来る限り一緒に作るようにしている。 食事のメニューを伝え、どう楽しむか考えていただいたりしている。	食事については、運営法人の厨房から提供を受けており、利用者の身体状態や健康状態に合わせた特別食等の提供も行われている。また、ホームでは、おやつ作りを毎日行っており、利用者もできることに参加しており、楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分摂取量は、生活記録の中で把握し支援している。 看護師、医師、介護が連携し、適切に水分量、栄養摂取ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	1日3回毎食後、口腔ケアを促している。必要に応じて介助している。 歯科医師の指導、指示に基づいた口腔ケアをサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	おむつを使用している方でも、時間毎にトイレ誘導をし、トイレでの排泄を促している。排泄記録により、パターンを把握している。定時の誘導やパット交換、声掛け等を行っている。	排泄記録については、記号も活用しながら職員間で共有する工夫も行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレの排泄を基本に考えながら、排泄に関する医療面での連携も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便周期を把握し、運動や水分摂取、マッサージ等促すようにしている。 下剤やマッサージを用いて予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	ひとり週2回を目安に基となる曜日はあるが、体調やその日の気分に合わせて変更をしている。	利用者が週2回の入浴ができるように午前と午後に入浴支援が行われており、利用者の状況に合わせた随時の支援が行われている。利用者毎にお湯を入れ替える取り組みも行われている。また、季節等にも合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室は、ひとり一室であり、自由に居室で休息出来るようになっている。 自由に居室で休息出来る様になっており、又季節に合わせて温度管理。 クッションやCPADを使っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	本人から求められれば、薬剤師から詳しい説明をしてもらう。服薬管理、服薬介助の支援を行っている。 看護、介護、薬局さんと連携し、情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションにとり入れている。 塗り絵をしたり、散歩に出掛けたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為、なかなか希望通りの外出は出来ない。 現在、コロナ禍で、医療受診等以外の外出は制限しているが、近隣への散歩で気晴らしをしている。	現状の感染症問題が続いていることで利用者の外出が困難になっているが、季節や天候等の状況をみながらホームの外を散歩に出る機会をつくっている。医療機関への受診をホームの自動車で行っていることで、利用者の外出の機会にもつながっている。	利用者の外出が困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、季節等に合わせた外出行事の取り組みが行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は所持していない。 本人の経済状況に合わせ、金銭管理をさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持している方は自由に使えるようになっている。 携帯電話の操作方法のサポートをさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ユニット内の装飾は季節に合わせて変えている。 浴室やトイレはいつでも気持ち良く使っていただけるよう掃除に気を配っている。 季節に合わせて利用者様と一緒にユニット内を飾り付け作成する事もある。掃除はこまめに行っている。 空間作りは、子供っぽくならないようにしたり、利用者様に合わせた室温管理をしている。	フロア内は広い空間が確保されていることで、利用者が日常生活をゆったりと過ごすことができる生活環境がつけられている。リビングの壁面には季節に合わせた飾り付けや利用者の作品を掲示しており、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共同フロアに座席位置を工夫している。 共同フロアにテーブル、イスがあり、いつでもくつろげる様にしてある。 そのときの気分に合わせて居場所で、輪になってお話ししたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に大切な物や使い慣れた物を持ち込んでいただくようにしている。 ご自宅で使っていたものを自室に持ち込み、馴染みのあるものを使っている。	居室については、シンプルな雰囲気のある居室の方もいるが、好みの家具類等の持ち込みも行われており、利用者や家族の意向等に対応している。また、居室に収納スペースが設置されていることで、居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	常に職員が見守り、必要に応じて介助し、安全に過ごしていただけるよう努めている。 転倒のないよう、安全な環境づくりに心掛けている。		